

(1) 事業名称等

【事業名称】梅津会館を中心とした文化財建造物管理活用組織の構築

【実施団体】特定非営利活動法人 結

【事業経費】891,856 円

(2) 事業の目的

常陸太田市鯨ヶ丘地区は台地の上に形成された市街地である。中世において佐竹氏の居城である太田城(舞鶴城)の城下町として発展したことから形成され、江戸期以降、物資の集散地として栄え、現在でも大店の構えを残す町屋や土蔵造りの建物が見られる。その中心には、昭和 11 年に太田町役場として建てられた鉄筋コンクリート造二階建ての建物が残り、常陸太田市の郷土資料館として活用されている。太田町役場は、梅津福次郎翁の寄付により建築されたことから、その徳を顕彰して、郷土資料館は「梅津会館」と呼ばれている。梅津会館は、平成 11 年 8 月に国登録有形文化財となり、平成 23 年度より文化庁事業「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」により保存修理が行われ、本年度 11 月 22 日から郷土資料館として再開した。

常陸太田市では、急速な少子高齢化が、将来的に健全で活力ある地域社会を維持していくうえでの深刻な課題となっており、子育て支援の施策推進に力を入れている。また、常陸太田市教育委員会では、梅津会館(常陸太田市郷土資料館)のリニューアルオープンにあたり、当該登録文化財の管理活用を市民団体との協働により進めていく方針を掲げている。

特色ある地形と歴史、伝統的な建築や生活文化がつくりあげる町並みを次世代につなぐため、NPOが核となり、「子育てママ」を主たる対象に、梅津会館の公開活用に主体的に参加する人材の育成を行い、地区内の文化財建造物の活用体制づくりを進めていく。子育てママの参画によって、文化財活用の可能性を広げると共に、その子供たちに鯨ヶ丘地区の魅力を伝えやすくすること、地区の中心をなしてきた梅津会館のリニューアルオープンを機に、歴史まちづくりのための新たな人の輪、活動の輪をつくるのが、本事業の主たる目的である。

当NPOは、前身となるコミュニティーカフェを平成 20 年より運営、子育て支援を中心に子育てママの応援事業を進めてきた。この取り組みの中で構築された地域ネットワークを本事業にも活用し、梅津会館の受付業務を担う人材育成を同時に進めていく。

(3) 事業活動の内容

●講座の開設(全6回)

対 象：地域で子育て中のママたち、地域の歴史や文化財建造物に関心のある市民等

実施体制：市の広報・当NPOのWeb・Facebook等のSNS・メンバーのネットワーク等で

募集(全6回通し)。当日は、市担当課の人的協力も頂きながら実施

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 1 回目

◇日時：平成26年 9月25日(木) ◇参加者：25名

◇場所：常陸太田市生涯学習センター講座室2・鯨ヶ丘地区

◇目的・内容

なぜ歴史を保存するのか？まずは常陸太田の歴史と出会い、街並みに触れながら保存活用の意義を考えるきっかけをつくる。

・「歴史を活かしたまちづくり」とは？登録文化財制度などの法制度基礎知識の講義

・常陸太田市鯨ヶ丘歴史的建造物調査報告の講義と街歩き

◇講師：藤川昌樹先生(筑波大学システム情報系社会工学域教授)

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 2 回目

◇日時：平成 26 年 10 月 16 日(木) ◇参加者：27 名

◇場所：常陸太田市商工会館会議室

◇目的・内容

鯨ヶ丘の中心に位置する梅津会館の歴史調査から、梅津福次郎氏と建築の魅力に触れる。

- ・梅津会館調査報告から梅津会館の特徴・魅力について講義
- ・庁舎建築の保存と活用の講義

◇講師：金出ミチル先生（歴史的建造物調査・修復家）

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 3回目

◇日時：平成 26 年 10 月 30 日(木) ◇参加者：24 名

◇場所：常陸太田市教育委員会文化課会議室・梅津会館

◇目的・内容

改修工事終盤に復原された空間と対面し、改めて当時の建築の魅力に触れながら、消しゴムや刷毛を使うお掃除の方法や注意点を学び、活用への夢を膨らませる。

- ・保存活用計画に基づく保存改修工事の解説
- ・現場を確認しながら特徴・魅力の案内解説、館内のお掃除ワークショップ

◇講師：金出ミチル先生（歴史的建造物調査・修復家）

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 4回目

◇日時：平成 26 年 11 月 27 日(木) ◇参加者：22 名

◇場所：常陸太田市商工会館会議室

◇目的・内容

コミュニティーの起源と意義から梅津会館運営の理念を導き出し、ワールドカフェ方式のワークショップで地域の課題と対応策を整理する手法を学ぶ。

- ・コミュニティー論と梅津会館運営理念の講義
- ・政策提言型ワールドカフェ

◇講師：長谷川幸介先生（茨城大学生涯学習教育研究センター准教授）

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 5回目

◇日時：平成26年12月18日(木) ◇参加者：16名

◇場所：常陸太田市教育委員会文化課会議室

◇目的・内容

前回の政策提言型ワールドカフェの続きとして、グループごとに具体的な企画・運営条件・効果までせり上げ発表を行い、合意形成の手法を学ぶ。

- ・梅津会館周辺のお食事処やお店など、受付業務に必要な地域情報の講義
- ・政策提言型ワールドカフェ続き 前回のまとめを具体化する。

◇講師：関 正規氏(常陸太田市商工会事務局長)

□文化財建造物を次世代につなぐ～管理活用の勉強会 6回目

◇日時：平成 27 年 1 月 24 日(土) ◇参加者：37 名（うち一般参加 15 名）

◇場所：梅津会館

◇目的・内容

初回から講座に参加し、歴史と魅力を学んできた受付業務を担当するスタッフが、一般参加のお客様に梅津会館をご案内し、伝える手法を学ぶ。

- ・3グループに分かれ、梅津会館を外部・1階・2階と順番にご案内実習
- ・改善点など気付いた点について意見交換・金出先生の講評

◇講師：金出ミチル先生（歴史的建造物調査・修復家）

●先進モデル視察：「NPO 法人 旧五十嵐邸を考える会」

◇日時：平成 26 年 10 月 27 日(月)～28 日(火) ◇参加者：4 名

◇場所：静岡県静岡市清水区蒲原

◇目的・内容

主婦のワークシェアリングによる登録文化財管理活用の先進事例として、静岡市より「登録有形文化財建造物 旧五十嵐歯科医院」の管理委託を受けている、NPO 法人旧五十嵐邸を考える会の取り組みを視察。文化財建造物の管理と活用、長い活動の中での問題点とその対応を学ぶ。

●リニューアルオープン記念事業 梅津福次郎ツアー

◇日時：平成 26 年 12 月 7 日(日) ◇参加者：17 名

◇コース：梅津会館からスタート、鯨ヶ丘の国登録有形文化財 旧稲田家住宅赤煉瓦蔵、駿河屋宮田書店店舗兼主屋を見学、その後若宮八幡宮・西山研修所・久昌寺を巡り、その後梅津会館に戻る。

◇目的・内容

梅津会館他、氏の寄付により建設された歴史的建造物と平成 26 年 3 月に答申を受けた鯨ヶ丘の国登録有形文化財をめぐり、氏の残した文化遺産と地域の魅力を再発見する。

◇案内人：藤川昌樹先生（筑波大学システム情報系社会工学域教授）

金出ミチル先生（歴史的建造物調査・修復家）

●西山研修所と久昌寺の調査

◇日時：平成 26 年 9 月 27 日・平成 26 年 12 月 23 日（調査日）

◇参加者：茨城県ヘリテージマネージャー5 名

◇目的・内容

久昌寺は徳川光圀が延宝 5 年（1677）に建立した寺院で、幕末の混乱期の影響を受けて荒廃し、明治 3 年（1870）年に現在の場所にあった久昌寺の末寺・蓮華寺と併合することで再建された。三昧堂壇林の跡地に建つ常陸太田市西山研修所は、昭和 13 年に社会教育施設「県立西山修養道場」として建築された建物である。昭和 6 年に建てられた鉄筋コンクリート造の久昌寺の現在の本堂と西山研修所は梅津福次郎翁の寄付により建設されたものであり、リニューアルオープン記念事業として調査を行い、その特徴や価値をわかりやすくまとめる。

◇指導：金出ミチル先生（歴史的建造物調査・修復家）

●受付業務を担うことになる「子育てママ」の組織づくり

本事業の実施過程において会館受付業務の受託が決定。コミュニティーカフェ事業で作り上げてきたネットワークを元に、講座生の中から主婦12名、そこに学生6名が加わりスタッフチームが作られた。

（4）事業の成果

- ・講座 6 回通しての参加総数136名、実人数39名中全講座参加 11 名、1 回欠席 5 名と、受付業務を担う予定の子育てママたちは特に熱心に参加した。地元出身という参加者は少なく、地域の歴史や魅力に全く興味がないところからのスタートであったが、熱心な受講により梅津福次郎氏だけでなく地域に誇りを持ち、次世代に伝えたいという思いに代わっていく様子がアンケート回答の自由意見からも読み取れる。これまで歴史講座の参加者は年配の男性が多く、若い世代には広がらないものであったが、今回の講座で可能性が広がった。また、4 回 5 回目で実施したワークショップ形式の話合いは初めてというママたちが多く、地域の歴

史や伝統工芸を結ぶ子どもを対象とした企画が数多く出され、鯨ヶ丘地区の魅力が直接子どもたちに伝える機会が増えると期待される。

- ・今回ご協力頂いた、筑波大学教授藤川先生、金出先生により平成19年に鯨ヶ丘歴史的建造物調査・梅津会館調査が行われ、平成21年に企画課・文化課主催で報告会が行われたが、関係者と一部の方の参加でその後の広がりはなかった。震災を契機に、平成24年より茨城県建築士会でもヘリテージマネージャー講座が始まり、重伝建地区の桜川市真壁地区と登録文化財も少ない常陸太田市鯨ヶ丘地区を対照的な教材として取り上げた。3年間にわたり鯨ヶ丘歴史的建造物調査報告と調査実習に藤川先生・金出先生の講義を組み好評を博した。これを何とか再び地域の方々に伝えたいと当NPOでは昨年2月3月にNPOメンバーと市役所若手職員向けに講座を開講。本事業の前段においても好評を頂き、ようやく新たな方々に地域の歴史を紹介する機会を持つこととなった。これまで、まちづくり関係の講演会なども多数実施されてきたが、地域の歴史調査に基づくまちづくりの講義はそれとは性格が異なり、その土地の人たちが生きてきた歴史や記憶を自分自身のこととして捉えることが出来るものである。今後も出来るだけ多くの市民に聴いて頂く機会を作り、新たな活動の輪を広げていきたい。
- ・梅津福次郎ツアー、西山研修所と久昌寺の調査、どちらも近隣在住の茨城県建築士会ヘリテージマネージャーの参加協力を得て行い、事業の実施に止まらず、管理におけるアドバイスを頂くなど今後の協力関係を深めるきっかけとなった。

(5) 事業実施後の課題

- ・講座6回目では、受付業務を担当することとなった講座生が梅津会館の模擬案内に取り組んだ。地元出身者ではないメンバーがほとんどのため、会館や付近での「思い出」の蓄積もたず、「学んだ知識」だけとなりがちである。実体験を持たないメンバーが利活用を考えていく際、そのメンバーのみで企画を進めるには不安があり、地域の有識者や地区住民との交流会などを積極的に投げかけていきたい。
- ・これまでの鯨ヶ丘地区は、空き店舗の活用など商店街の活性化を中心に取り組んできたが、文化財の保存活用とは異なる視点で、震災を契機に一気に解体が進んだ。梅津会館のリニューアルオープンを機に再び地域との結びつきを深め、梅津会館を核とした歴史的建造物群の保護に対する地区住民の理解を醸成していくにはまだまだこれからと言える。

(6) 今後の展開

- ・梅津会館ファンクラブ（あるいはサポータークラブ）を組織する。
- ・今回同様の講座(入門編)を継続しながら、梅津会館のサポーターを増やしていく。
- ・講座のステップアップ編として、既に活動をしている街角案内人の会（ボランティア組織）と連携しながら差別化を図る内容と手法を構築し、梅津会館を拠点に鯨ヶ丘全体にフィールドを広げていく。
- ・既に今年度、2階多目的スペースでは当NPO企画で、2月「梅津落語会」、3月は大空間を活かした展示方法で「スケッチで描く常陸太田 ～沼田久雪 ポストカード原画展～」を開催し、来館者数を大きく伸ばしている。
企画提案ワークショップを継続しながら、ママたちによる企画を遂行していく。
- ・当NPOの他の事業（子育て支援事業、Web事業、芸術文化事業）との連携を図る。

(7) その他

【組織体制やワークシェアリングを前提とした勤務条件等を固めていく検討過程】

子育て支援は単に子育て中の親子を対象とするものではなく、親子を中心点として、小学生中学生高校生を持つ家庭、そして大人同士、三世代へも同心円として広がる地域の課題である。地域コミュニティ再生の取り組みがベースとしてあり、それを文化財活用につなげていった。

① 管理運営メンバーの属性

- ・特定の世代、特定の学区にとどまらず多岐にわたって関わる人。
- ・趣味のサークルなどで活動してきた好奇心旺盛なメンバーに集中的に声かけ。ただし、特定のグループだけで構成するのではなく、グループも多様である。
- ・生まれも育ちも常陸太田というメンバーは0名である。

当 NPO のメンバーが今まで活動してきた経験からも、結婚や仕事によって住む地域を移動せざるを得なかった女性たちは、必然的に友達を捜すこととなり、無意識にネットワークを広げようと趣味や活動に積極的になると思われる。そのような層の年代の違う女性たちが、地元へ根をはった人物等とつながりを作ることが、地域への刺激としても有効であると思われる。

② 属性ごとに考慮を要した点とその解決等

・フルタイム労働を選ばない/できない子育て中のママたちが社会性をもちつつ、ある程度の金銭的余裕が生まれる程度の勤務をするには、週に数日、一日数時間という勤務時間が長続きすると思われる。一番のネックは土日祝日/長期休暇の間の勤務である。月を4週とみて、8回の土日に、必ず半日勤務日を入れることをお互いの約束としていれることを了解してもらった後、週単位の勤務希望日を出してもらった。土日勤務の不足分は、常陸太田から通っている大学生を中心にアルバイトを探した。結果として携わるメンバーは子育てママ12名、学生6名となる。

約4ヶ月が経過、学生の協力がないと土日のシフト自体が成り立たないが、学生の意識と他のメンバーの意識には微妙な差が見受けられる。

・急な勤務交代などが必ず起きると予想される（子供の病気など）ので、全体への連絡が一気にかつ一覧性のある連絡網が必要になるため、就業希望者にはフェイスブック利用を義務づけ、そのための勉強会も数回行った。TEAM_梅津会館というFB非公開グループを立ち上げ、メンバー全員と当 NPO 理事、学生を含めて連絡を取っている。スマートフォンを使用しないメンバーも数名あったものの、全員がパソコンでのFB閲覧は可能であった。ガラケー利用者には、朝必ずFBを閲覧し、内容をチェックすることとした。（スライド：シフト表参照）

- ・やむを得ない事情がある場合、子連れ出勤も可とする。（ルールあり）
- ・チーフを2名選任。月に一度、月曜休館日にチーフ会議と全体会議をもつ。
- ・市担当課との連絡ノートを用意。等